

宮崎県日南市新村地区の保護林設定について

1-1 保護林設定のための森林基礎調査の内容

本区域は、暖温帯性常緑広葉樹林（照葉樹林）がまとまって存在しており、この区域を保護林（旧植物群落保護林）として設定するため、平成21年度に森林基礎調査を実施した経緯がある。

その後、周辺に広がる同様の植生区域一帯を保護林に含めることが望ましいとの保護林管理委員会の意見を踏まえ、区域拡大と一段階上位の生物群集保護林へのシフトを前提として、改めて検討することとした。

以上のことから、保護林設定管理要領及び保護林モニタリング調査マニュアルに基づき、森林詳細調査及び機能評価等を実施し、基礎資料をとりまとめるものとする。

令和2年度森林基礎調査項目一覧

◎：必須、●：選択

樹木の生育		下層植生の生育		野生動物の生育・生息			病虫害・鳥獣害			
C	E	F	G	H	I-1	I-2	I-3	L	D	M
資料調査	森林詳細	資料調査	森林詳細	資料調査	哺乳類	鳥類	その他	資料調査	森林概況	森林詳細
◎	◎	◎	◎	●	●	●	●	●	●	●

1-2 調査内容及び進捗状況

8月末時点での調査内容の進捗状況を表1に示す。

以下、調査内容及び結果概況等を示す。

表1 進捗状況

項目	年・月	令和2年								令和3年				
		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
ア 現地踏査														
イ 森林詳細調査														
森林詳細調査														
森林概況調査														
病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査														
ウ 動物調査														
自動撮影カメラ														
コウモリトラップ調査														
その他動物調査(移動中)														
エ 無人航空機(UAV)による調査														
森林概況把握														

8月末までは、実施した項目を、9月以降は予定を示す。

ア 現地踏査 (実施済み)

・調査内容

植生図を判読し、調査地や林種ごとに大まかなブロックに分け、ブロック当たり1箇所(プロット)の森林詳細調査候補地点を選定した。

・選定の基準

保護林内の地形や標高等を考慮し、代表的な森林状況を示す場所や、指標種となる代表的な動植物の生育・生育箇所を以下の項目を考慮して設定した。

- ① 保護林内の代表的な森林状況を示し、野生動植物の生息・生育状況を考慮する。
- ② 保護林内に幅広く設定する。
- ③ 地形(尾根・中腹・沢)や標高を考慮する。
- ④ 定期的なモニタリング調査を考慮し、安全なアクセスルートを考慮する。

・調査実施日 令和2年6月8日～12日

・実施結果

調査対象地を9ブロックに分け、11箇所の調査候補地点を選定した。その中から、6地点を新たに選定し、既存調査地点から2地点を選定し、計8地点を選定した。位置図及び、現地調査結果に示す。

イ 森林詳細調査 (未実施)

・調査内容

各調査プロットにおいて、表2に示す調査項目を実施する。

・調査実施予定日 令和2年10月、12月下旬

表2 森林詳細調査の調査項目

調査項目	手法区分	詳細内容
樹木の生育状況調査	森林詳細調査	プロット内の樹木の樹種、胸高直径、樹高を計測及び全天球写真を利用して樹木の生育状況を定点観察する。
下層植生の生育状況調査	森林詳細調査	同一時期にプロット内に出現する全ての種を記録及び全天球写真を利用し、下層植生の生育状況を定点観察する。
病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査	森林概況調査	調査票やチェックシート等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を観察する。
	森林詳細調査	プロット内の樹木の病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を定量的に調査する。

ウ 動物調査（継続実施中）

・調査内容

森林詳細調査地点及びその周辺、並びに調査ルートにおける野生動物生息状況を確認する。調査項目を表3に示す。調査は、夏季と冬季に2回実施する。

森林性のコウモリは、森林内に生息する昆虫を餌として毎日捕食する。コウモリが生息するためには、飛翔昆虫の種数が豊かな環境が必要であり、樹洞に生息するコウモリは大径木が必要である。したがって、コウモリを確認することは森林の指標の一つになるため、コウモリの調査を実施する。

・調査実施日

令和2年7月28日～30日

自動撮影カメラ、人工布トラップ等を設置

令和2年8月22日、23日

コウモリ人工布トラップ確認、コウモリ撮影カメラ確認（1地点）確認・回収（コウモリ撮影用カメラ3台は継続設置中）

表3 動物調査の調査項目

調査項目	詳細内容
自動撮影カメラ調査	自動撮影カメラを各プロット地点3箇所以上設置した。コウモリ撮影用に各プロット1台を樹上に設置する。また、カワネズミ撮影用カメラを河川に2台設置した。（1泊2日）計29台を設置した。
コウモリトラップ調査	4プロットに人工布トラップを各10個、計40個を設置した。
その他動物調査（移動中）	森林詳細調査地点及びその周辺、並びに調査ルートにおける野生動物の生息状況を記録する。

・実施結果

①自動撮影カメラ調査

カワネズミ撮影用カメラで、テン1個体を確認した。

コウモリ撮影用無人カメラ プロットNo. 9地点にてニホンコテングコウモリ1個体を撮影した。本種は宮崎県のレッドデータブック（2011）で絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。

②コウモリトラップ調査

プロットNo. 11にて人工布内のニホンコテングコウモリ1個体を確認した。



写真1 撮影されたニホンコテングコウモリ

写真2 人工布内のニホンコテングコウモリ

③その他動物調査（移動中）

哺乳類は、ノウサギ、ニホンアナグマの2種を確認した。

爬虫類は、マムシ、アオダイショウの2種を確認した。

両生類は、タゴガエル、シュレーゲルアオガエル、カジカガエルの3種を確認した。

鳥類は、コジュケイ、ヤマドリ、キジバト、ジュウイチ、アカショウビン、アオゲラ、リュウキュウサンショウクイ、サンコウチョウ、カケス、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、メジロ、ゴジュウカラ、キビタキ、オオルリ、イカル、ホオジロの21種を確認した。

アカショウビン、オオルリ、キビタキ、サンコウチョウ、ジュウイチは宮崎県のレッドデータブックで準絶滅危惧種に、アカヤマドリは環境省のレッドデータブック（2014）で準絶滅危惧種に、宮崎県のレッドデータブック（2011）では準絶滅危惧種に指定されている。

エ 無人航空機 (UAV) による調査対象区域の概況把握 (実施済み)

- ・調査実施日 令和2年6月8日、10日
- ・実施結果

DJI Phantom3 professionalを用いて、新村林道と割岩林道で撮影を実施した。それぞれから撮影した画像を写真3、写真4に示す。

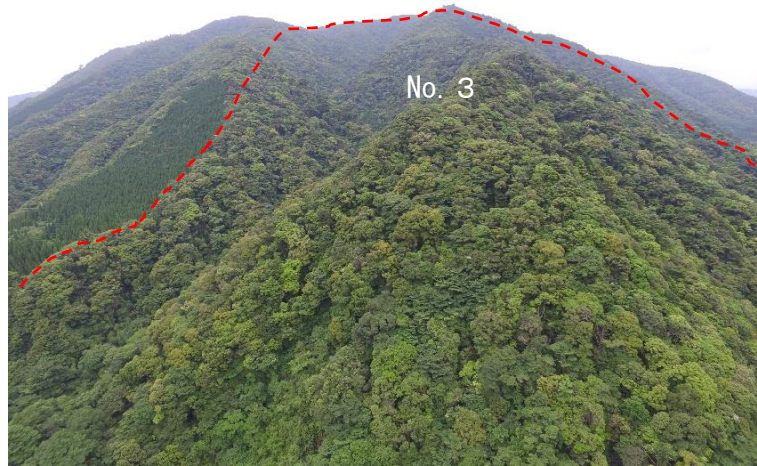
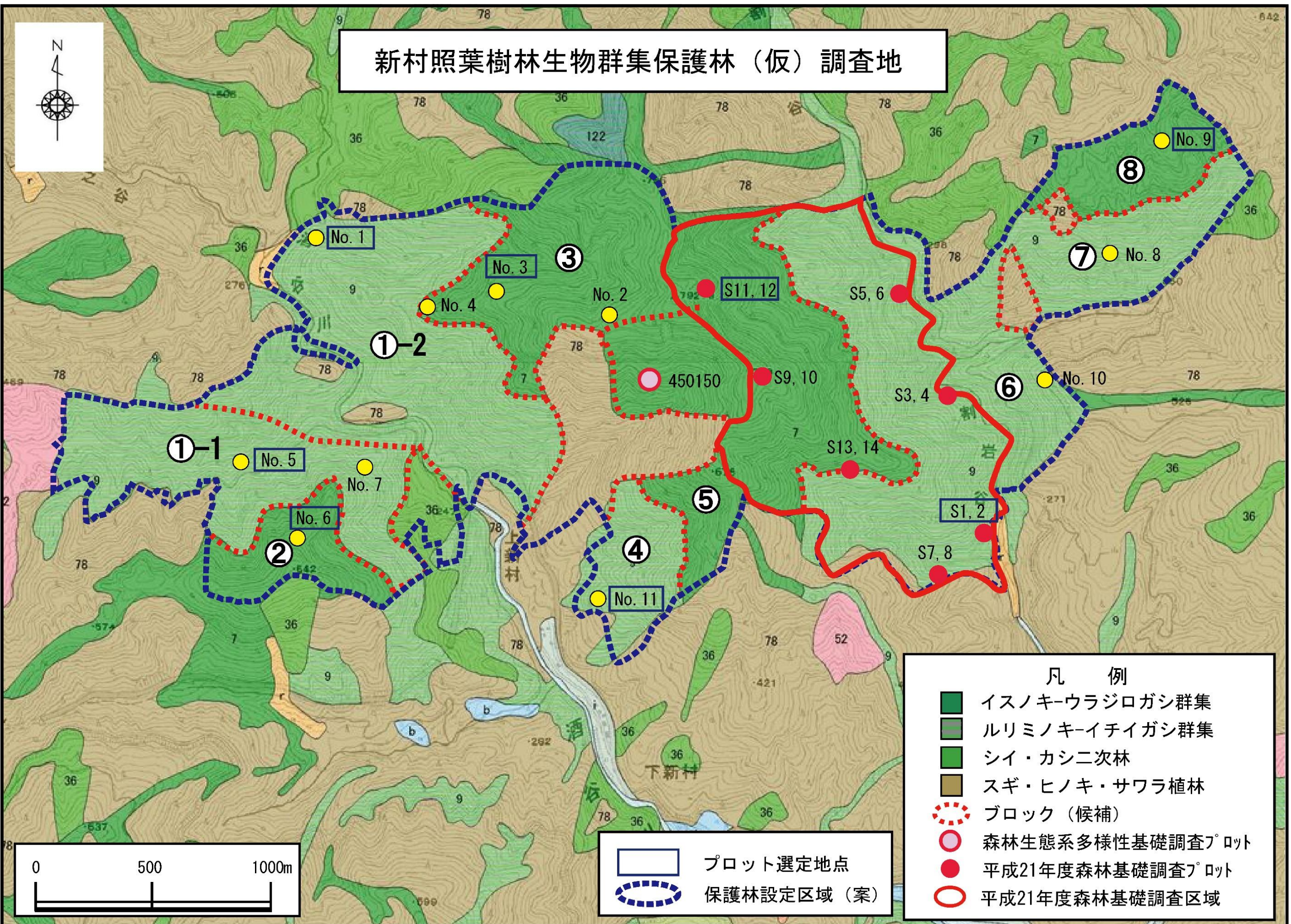


写真3 新村林道より東側 (ピーク 676m) を撮影



写真4 割岩林道より北西側 (△733~△792.5) を撮影

新村照葉樹林生物群集保護林（仮）調査地

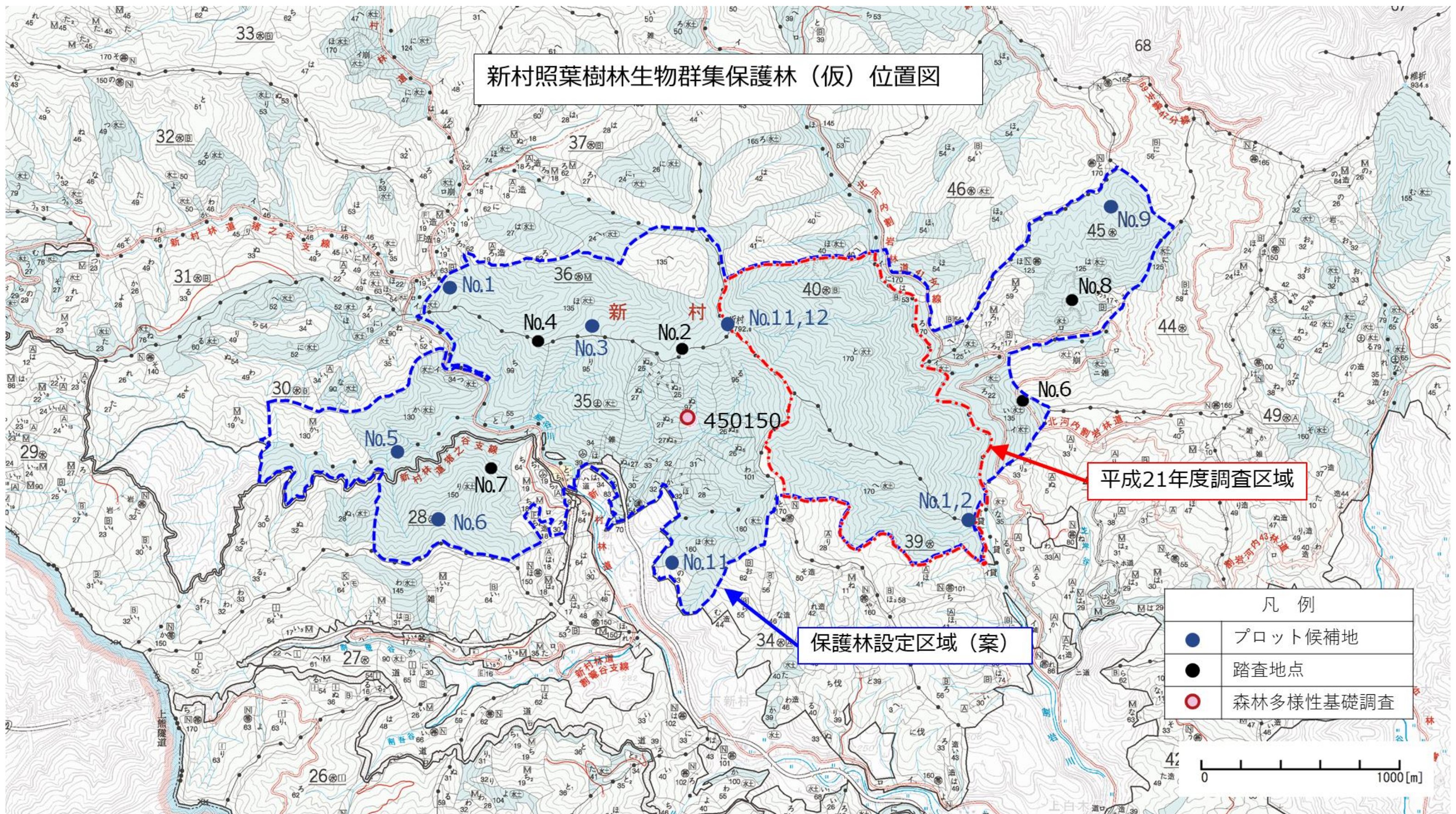


凡 例

- イスノキ-ウラジロガシ群集
- ルリミノキ-イチイガシ群集
- シイ・カシ二次林
- スギ・ヒノキ・サワラ植林
- ブロック（候補）
- 森林生態系多様性基礎調査プロット
- 平成21年度森林基礎調査プロット
- 平成21年度森林基礎調査区域

- プロット選定地点
- 保護林設定区域（案）

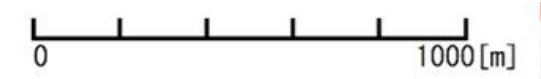
新村照葉樹林生物群集保護林（仮）位置図



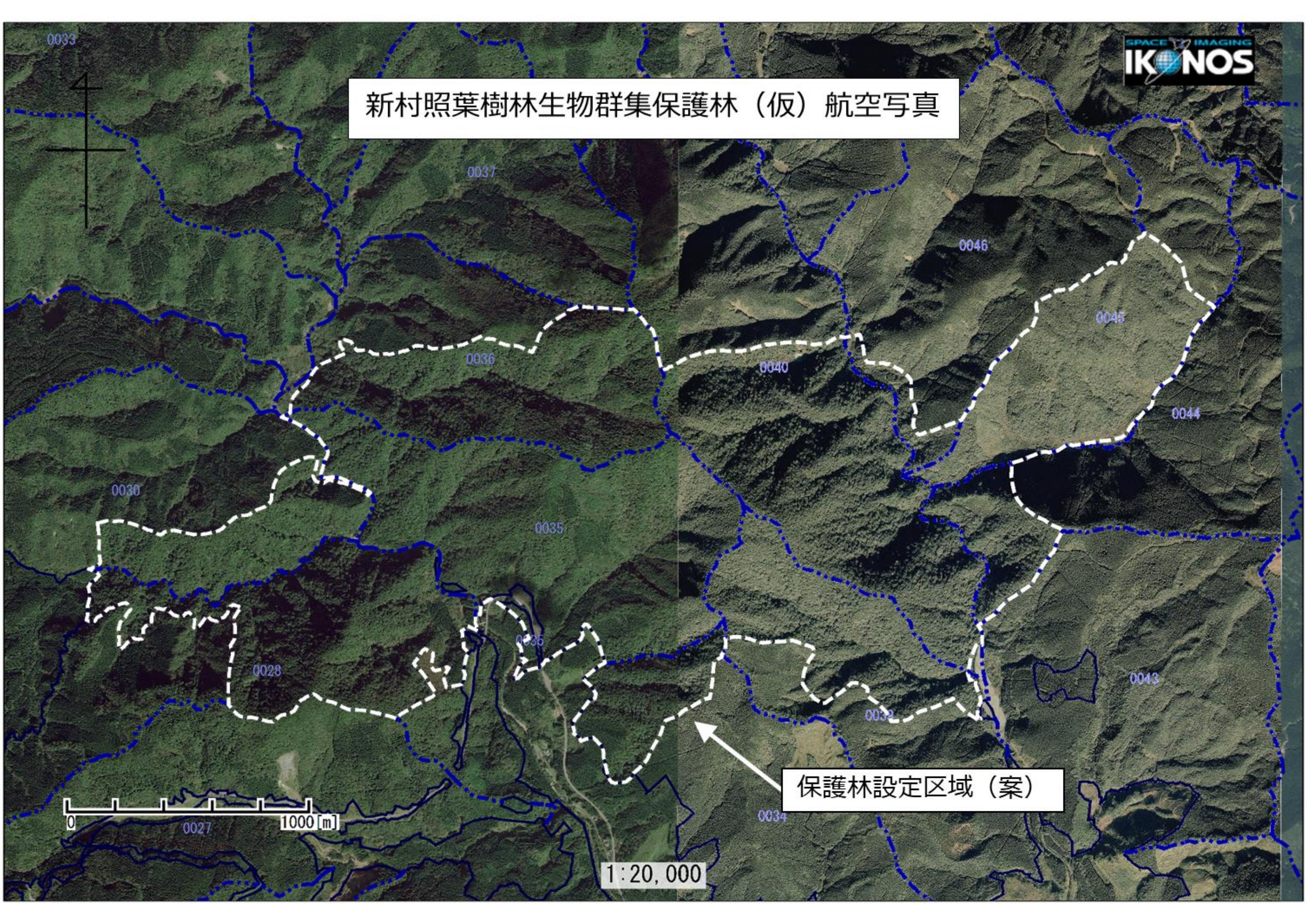
平成21年度調査区域

保護林設定区域（案）

凡例	
●	プロット候補地
●	踏査地点
○	森林多様性基礎調査



新村照葉樹林生物群集保護林（仮）航空写真



0 1000 [m]

1:20,000

保護林設定区域（案）

地点No. ★候補地点(6地点)案	ブロックNo.	群落名	標高(m)	地形	高木層			亜高木層			低木層			草本層			最大胸高直径(cm)/樹種	特記事項(希少種等)	大径木最大級5本		選定理由
					優占種	群落高(m)	植被率(%)	優占種	群落高(m)	植被率(%)	優占種	群落高(m)	植被率(%)	優占種	群落高(m)	植被率(%)			樹種	胸高直径(cm)	
1★	①-2	ルリミノキ-イチイガシ群集	354	谷〜尾根(山腹凸斜面)	ツブラジイ ウラジロガシ	25	95	ウラジロガシ	12	50	イスノキ	7	50	ヒメアリドオシ キシノオシダ コバノカナワラビ	0.5	20	69.8 ウラジロガシ		ウラジロガシ ツブラジイ ツブラジイ ウラジロガシ ツブラジイ	43.9 36.6 52.2 69.8 39.7	ブロック①-2で唯一の地点。谷の急斜面を含むため、選定。
2	③	イスノキ-ウラジロガシ群集	725	尾根(山腹凸斜面)	アカガシ マテバシイ タブノキ	20	90	アカガシ ヤブニッケイ	12	50	サザンカ タブノキ イスノキ	7	50	ミヤマシキミ ホソバタブ アオキ	0.5	10	112.8 アカガシ		アカガシ マテバシイ タブノキ アカガシ アカガシ	55.8 48.7 68.2 60.0 112.8	アカガシ林で標高も高いが、同じブロック③でアカガシ林のS11, 12を選定したため、除外。
3★	③	イスノキ-ウラジロガシ群集	582	尾根(山腹凸斜面)	アカガシ ツブラジイ ウラジロガシ	25	90	ヤブニッケイ アカガシ イスノキ	12	50	ヤブニッケイ ヒサカキ ネズミモチ	7	40	イズセンリョウ コバノカナワラビ ベニシダ	0.5	20	148.7 アカガシ		ツブラジイ アカガシ アカガシ アカガシ アカガシ	53.7 76.0 89.5 61.4 148.7	アカガシ林で、最大径級148.7cmのアカガシが生育しており、この地点を調査することで当ブロックを保全地区として選定する根拠にもなるため、選定。
4	③	イスノキ-ウラジロガシ群集	498	尾根(山腹凸斜面)	スダジイ ツガ	23	70	イスノキ ミズキ	12	60	ヒサカキ ヤブツバキ アオキ	7	50	イズセンリョウ ヒメアリドオシ アオキ	0.5	5	84.8 スダジイ	セッコク(落下個体)	ツガ スダジイ スダジイ ツガ スダジイ	72.9 80.2 84.8 65.2 44.7	同じブロック③でNo. 3及びS11, 12を選定したため、除外。
5★	①-1	ルリミノキ-イチイガシ群集	283	谷(山脚堆積面)	ツクバネガシ ウラジロガシ イチイガシ	20	90	ウラジロガシ	12	30	タイミンタチバナ イスノキ ルリミノキ	7	60	コバノカナワラビ アリドオシ アオキ	0.5	30	104.8 ツガ		ツガ ツクバネガシ スダジイ イスノキ ツクバネガシ	104.8 39.6 35.1 48.6 48.6	ブロック①-1で唯一の地点。谷の急斜面を含むため、選定。また、ルリミノキ-イチイガシ群集を代表するルリミノキとイチイガシが生育。周辺にはアミシダ、オトコシダ、ホオノカワシダなど希少種あり。
6★	②	イスノキ-ウラジロガシ群集	568	尾根(山腹凸斜面)	ウラジロガシ アカガシ スダジイ	20	90	イスノキ ヤブツバキ	10	40	イスノキ イヌビワ イヌマキ	5	60	サツマイナモリ イズセンリョウ	0.5	30	104.7 アカガシ	エビネ属	アカガシ スダジイ ウラジロガシ スダジイ ウラジロガシ	104.7 69.2 65.7 56.4 66.2	ブロック②で唯一の地点。イスノキ-ウラジロガシ群集を代表するイスノキとウラジロガシが優占する林分のため、選定。
7	①-1	ルリミノキ-イチイガシ群集	259	尾根(山腹凸斜面)	スダジイ アカガシ イスノキ	23	90	イスノキ タイミンタチバナ ヤブツバキ	12	50	イスノキ アオキ ルリミノキ	7	70	コバノカナワラビ イズセンリョウ ガンゼキラン	0.5	20	53.1 ウラジロガシ	ガンゼキラン	スダジイ アカガシ イスノキ ウラジロガシ アカガシ	42.4 42.8 38.4 53.1 41.1	胸高直径は細い木が多く、二次林の様相を呈するため、除外。
8	⑦	ルリミノキ-イチイガシ群集	446	尾根(山腹凸斜面)	スダジイ タブノキ	20	70	コバンモチ タブノキ	12	50	タイミンタチバナ イスノキ ヒサカキ	5	50	イズセンリョウ ヒメアリドオシ ヤマビワ	0.5	5	54.0 タブノキ		タブノキ アカガシ スダジイ スダジイ ヤマモモ	54.0 26.1 33.1 48.5 31.4	ブロック⑦で唯一の地点だが、胸高直径の細い木が多いため、除外。
9★	⑧	イスノキ-ウラジロガシ群集	666	尾根(平坦地)	スダジイ アカガシ ウラジロガシ	23	90	ヤブニッケイ シロダモ	12	30	ヒサカキ リンボク イスノキ	7	60	イズセンリョウ ヒメアリドオシ ミヤマシキミ	0.5	20	149.0 スダジイ		スダジイ スダジイ アカガシ イスノキ アカガシ	149.0 128.7 48.1 45.1 54.9	最大径級のスダジイ149.0cmが生育。他にも胸高直径の太い木が生育し、老齢林の様相を呈する。ブロック⑧で唯一の地点でもあるため、選定。
10	⑥	ルリミノキ-イチイガシ群集	433	尾根(山腹平衡斜面)	スダジイ タブノキ ウラジロガシ	20	95	イスノキ タブノキ サカキ	10	30	イスノキ ヤブニッケイ ヒサカキ	5	50	コバノカナワラビ イズセンリョウ ヒメアリドオシ	0.5	20	88.5 スダジイ		タブノキ ウラジロガシ スダジイ スダジイ アカガシ	63.8 69.2 88.5 45.2 54.2	急斜面で胸高直径の太い木もあるが、ブロック⑥ではS1, 2を選定したため、除外。
11★	④	ルリミノキ-イチイガシ群集	352	谷(山腹凹斜面)	スダジイ イスノキ アカガシ	22	95	イスノキ	12	50	タイミンタチバナ ヒサカキ イヌマキ	5	50	コバノカナワラビ イズセンリョウ ヒメアリドオシ	0.5	50	103.0 スダジイ		スダジイ アカガシ アカガシ イスノキ スダジイ	54.2 90.3 82.7 48.1 103.0	ブロック④で唯一の地点で、谷地形を含む。スダジイ103.0cmの径級の大きい木もあるため、選定。

その他

No. 1〜No. 4の移動ルート上	希少種等:	ヒュウガアザミ、キンチャクアオイ、オトコシダ、ガンゼキラン、エビネ属、キエビネ、ツリシュスラン、ナゴラン、セッコク、オオバノトンボソウ、ムヨウラン、ホウライカズラ等が確認された。 セッコクが多く落下していた。尾根上はムヨウラン(ムヨウラン属も含む)も開花個体及び結実個体や着生ランの落下個体もわりと多く確認された。
	林内環境:	シカ被害や痕跡は確認されなかった。アオキの低木や幼木が林縁に密生しており、草本類も繁っていた。 尾根上は大径木があるが、斜面部は径級の細い木が多く、代償植生の様相を呈する。
No. 5の移動ルート上	希少種等:	オトコシダ、アミシダ、ホオノカワシダが沢沿いの崖地に生育。一部群落を形成する。沢沿いの斜面にはガンゼキランが生育し、倒木にはミヤマムギランが着生。
No. 6〜No. 7の移動ルート上	希少種等:	尾根上にはウススキムヨウランが点々とあり、ガンゼキランも確認。イチヤクソウが多い。
No. 8の移動ルート上	希少種等:	ガンゼキランの開花個体を確認。 林内環境: 林縁部にはアオキの低木及び幼木が密生する。
No. 9、No. 10、No. 11の移動ルート上	希少種等:	確認なし。アオキもなし。
その他動物	希少種等:	ニホンコトゲコウモリ、アカショウビン、オオルリ、キビタキ、サンコウチョウ、ジュウイチ、アカヤマドリ等が確認された。
全域をとおして		林道沿いや林縁はアオキの低木が茂り、林床には幼木が生育している。 猪谷支線沿いの林縁には、ヒュウガアザミが点々と生育。 林床はイズセンリョウやコバノカナワラビが優占する林分も多く、ミヤマシキミが優占するところもあるがこれは本来の植生でありシカ被害によるものではない。

森林基礎調査業務（新村地区） 既存調査地点（平成21年度 既存プロット地点）

既存地点 No.	群落名	標高 (m)	地形		高木層			亜高木層			低木層			草本層			最大胸高直径(cm)/樹 種	特記事項 (希少種等)	選定理由
					優占種	群落高 (m)	植被率 (%)	優占種	群落高 (m)	植被率 (%)	優占種	群落高 (m)	植被率 (%)	優占種	群落高 (m)	植被率 (%)			
S 01	ルリミノキ-イチイガシ群集	226	下部谷壁斜面	谷 (山腹平衡斜面)	イチイガシ	10~	70	ホソバタブ	5~10	60	バリバリノキ アオキ	0.5~5	40	カツモウイノデ	~0.5	40	89.2 イチイガシ		
S 02		232		谷 (山腹平衡斜面)	イチイガシ	12~	70	バリバリノキ	5~12	60	バリバリノキ アオキ	0.5~5	40	-	~0.5	40	46.6 ホソバタブ		
S 11	ミヤマシキミ-アカガシ群集	780	頂部斜面	尾根 (山腹凸斜面)	アカガシ ヒメシヤラ	12~	60	ホソバタブ	5~12	50	ホソバタブ ミヤマシキミ	7	40	ミヤマシキミ		20	52.5 アカシデ		
S 12		788		尾根 (山腹凸斜面)	アカガシ	12~	80	ホソバタブ	12	60	ホソバタブ ミヤマシキミ	7	40	ヒサカキ		30	72 アカガシ		

森林基礎調査業務（新村地区） 既存調査地点（生態系基礎調査地点）

既存地点 No.	群落名	標高 (m)	地形		高木層			亜高木層			低木層			草本層			最大胸高直径(cm)/樹 種	特記事項 (希少種等)	選定理由
					優占種	群落高 (m)	植被率 (%)	優占種	群落高 (m)	植被率 (%)	優占種	群落高 (m)	植被率 (%)	優占種	群落高 (m)	植被率 (%)			
450150	ミヤマシキミ-アカガシ群集	788	麓部斜面	尾根 (山腹平衡斜面)	ヒノキ	18~	80	-	-	40	-	-	-	-	-	-	44.4 ヒノキ		ヒノキが優先する林分であるこ とから対象としない。

森林基礎調査業務（新村地区） 現地踏査結果

地点No. 候補地点 (8地点) 案	群落名	標高 (m)	地形			気温	
						年平均	最寒月
S01, 02	ルリミノキー イチイガシ群集	226	下部谷壁斜面	谷	山腹平衡斜面	17.1	6.7
S11, 12	イスノキー ウラジロガシ群集	780	頂部斜面	尾根	山腹凸斜面	13.7	3.3
1	ルリミノキー イチイガシ群集	354	麓部斜面	谷～尾根	山腹凸斜面	16.3	5.9
3	イスノキー ウラジロガシ群集	582	上部谷壁斜面	尾根	山腹凸斜面	14.9	4.5
5	ルリミノキー イチイガシ群集	283	下部谷壁斜面	谷	山脚堆積面	16.7	6.3
6	イスノキー ウラジロガシ群集	568	上部谷壁斜面	尾根	山腹凸斜面	15.0	4.6
9	イスノキー ウラジロガシ群集	666	頂部斜面	尾根	平坦地	14.4	4.0
11	ルリミノキー イチイガシ群集	352	下部谷壁斜面	谷	山腹凹斜面	16.3	5.9

日現地踏査 標高別

地点No. 候補地点 (8地点) 案	群落名	標高 (m)	地形			気温	
						年平均	最寒月
S01, 02	ルリミノキー イチイガシ群集	226	下部谷壁斜面	谷	山腹平衡斜面	17.1	6.7
5	ルリミノキー イチイガシ群集	283	下部谷壁斜面	谷	山脚堆積面	16.7	6.3
11	ルリミノキー イチイガシ群集	352	下部谷壁斜面	谷	山腹凹斜面	16.3	5.9
1	ルリミノキー イチイガシ群集	354	麓部斜面	谷～尾根	山腹凸斜面	16.3	5.9
6	イスノキー ウラジロガシ群集	568	上部谷壁斜面	尾根	山腹凸斜面	15.0	4.6
3	イスノキー ウラジロガシ群集	582	上部谷壁斜面	尾根	山腹凸斜面	14.9	4.5
9	イスノキー ウラジロガシ群集	666	頂部斜面	尾根	平坦地	14.4	4.0
S11, 12	イスノキー ウラジロガシ群集	780	頂部斜面	尾根	山腹凸斜面	13.7	3.3

日現地踏査 地形別

地点No. 候補地点 (8地点) 案	群落名	標高 (m)	地形			気温	
						年平均	最寒月
1	ルリミノキー イチイガシ群集	354	麓部斜面	谷～尾根	山腹凸斜面	16.3	5.9
S01, 02	ルリミノキー イチイガシ群集	226	下部谷壁斜面	谷	山腹平衡斜面	17.1	6.7
5	ルリミノキー イチイガシ群集	283	下部谷壁斜面	谷	山脚堆積面	16.7	6.3
11	ルリミノキー イチイガシ群集	352	下部谷壁斜面	谷	山腹凹斜面	16.3	5.9
6	イスノキー ウラジロガシ群集	568	上部谷壁斜面	尾根	山腹凸斜面	15.0	4.6
3	イスノキー ウラジロガシ群集	582	上部谷壁斜面	尾根	山腹凸斜面	14.9	4.5
9	イスノキー ウラジロガシ群集	666	頂部斜面	尾根	平坦地	14.4	4.0
S11, 12	イスノキー ウラジロガシ群集	780	頂部斜面	尾根	山腹凸斜面	13.7	3.3

基準データ 都城（気象庁観測 2019年 過去データより）

月平均気温 17.5℃
 最寒月気温(1月) 7.1℃
 都城観測地点 154 m

保護林の概況調査整理表

調査プロット	No. 1		
調査日時	2020/6/8		
標準地（現地調査候補地）の位置・地形等			
林班	36 ほ林班	斜面方位	NW
標高	354m	傾斜角度	35°
緯度経度・測位系	N 31° 40'28.00" E 131° 11'44.77"	局所地形	谷～尾根 (山腹凸斜面)
群集名			
ルリミノキーイチイガシ群集			
植生の概況			
<p>■高木 ツブラジイ、ウラジロガシ</p> <p>■亜高木 ウラジロガシ</p> <p>■低木 イスノキ</p> <p>■草本 ヒメアリドオシ、キジノオシダ、コバノカナワラビ</p>			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況（写真は別途添付のこと）			
なし			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況（写真は別途添付のこと）			
なし			
選定理由			
ブロック①-2で唯一の地点。谷の急斜面を含むため			
その他			



中心点より北方向



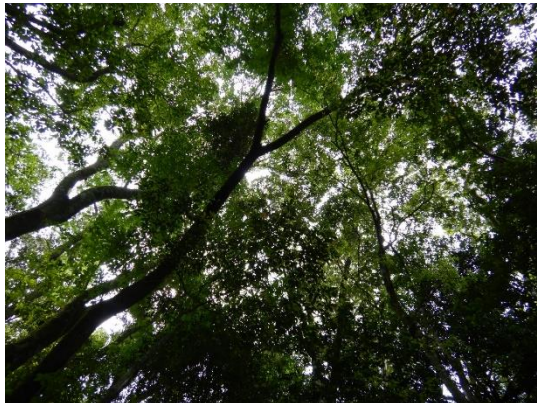
中心点より東方向



中心点より西方向



中心点より南方向



中心点の真上



全天球写真

保護林の概況調査整理表

調査プロット	No. 3		
調査日時	2020/6/8		
標準地（現地調査候補地）の位置・地形等			
林班	36 ほ林班	斜面方位	NW
標高	582m	傾斜角度	30°
緯度経度・測位系	N 31° 40'21.80" E 131° 12'12.00"	局所地形	尾根 (山腹凸斜面)
群集名			
イスノキーウラジログシ群集			
植生の概況			
<p>■高木 アカガシ、ツブラジイ、ウラジログシ</p> <p>■亜高木 ヤブニッケイ、アカガシ、イスノキ</p> <p>■低木 ヤブニッケイ、ヒサカキ、ネズミモチ</p> <p>■草本 イズセンリョウ、コバノカナワラビ、ベニシダ</p>			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況（写真は別途添付のこと）			
なし			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況（写真は別途添付のこと）			
なし			
選定理由			
アカガシ林で、最大径級 148.7 cmのアカガシが生育しており、この地点を調査することで当ブロックを保全地区として選定する根拠にもなるため			
その他			



中心点より北方向



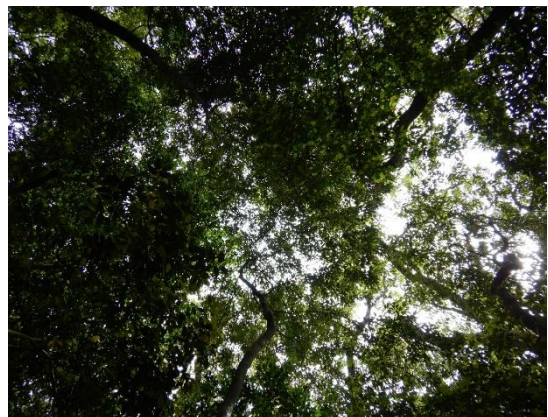
中心点より東方向



中心点より西方向



中心点より南方向









中心点の真上



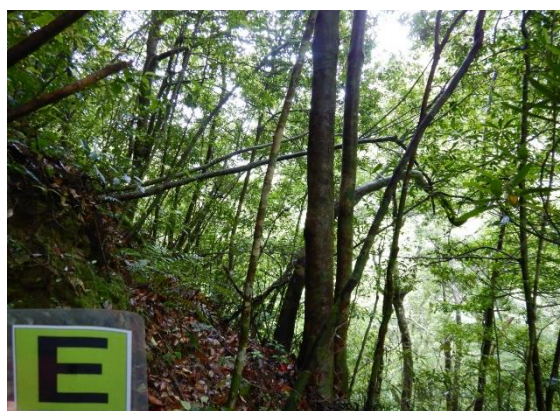
全天球写真

保護林の概況調査整理表

調査プロット	No. 5				
調査日時	2020/6/8				
標準地（現地調査候補地）の位置・地形等					
林班	28 林班	斜面方位	NW		
標高	283m	傾斜角度	17°		
緯度経度・測位系	N 31° 40'01.24" E 131° 11'34.72"	局所地形	谷 (山脚堆積面)		
群集名					
ルリミノキーイチイガシ群集					
植生の概況					
<p>■高木 ツクバネガシ、ウラジロガシ、イチイガシ</p> <p>■亜高木 ウラジロガシ</p> <p>■低木 タイミンタチバナ、イスノキ、ルリミノキ</p> <p>■草本 コバノカナワラビ、アリドオシ、アオキ</p>					
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況（写真は別途添付のこと）					
なし					
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況（写真は別途添付のこと）					
なし					
選定理由					
<p>ブロック①-1で唯一の地点。谷の急斜面を含むため、選定。また、ルリミノキーイチイガシ群集を代表するルリミノキとイチイガシが生育。周辺にはアミシダ、オトコシダ、ホオノカワシダなど希少種あり。</p>					
その他					
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">  <p>希少種 アミシダ 準絶滅危惧種：宮崎県</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">  <p>希少種 オトコシダ 準絶滅危惧種：宮崎県</p> </td> </tr> </table>				 <p>希少種 アミシダ 準絶滅危惧種：宮崎県</p>	 <p>希少種 オトコシダ 準絶滅危惧種：宮崎県</p>
 <p>希少種 アミシダ 準絶滅危惧種：宮崎県</p>	 <p>希少種 オトコシダ 準絶滅危惧種：宮崎県</p>				



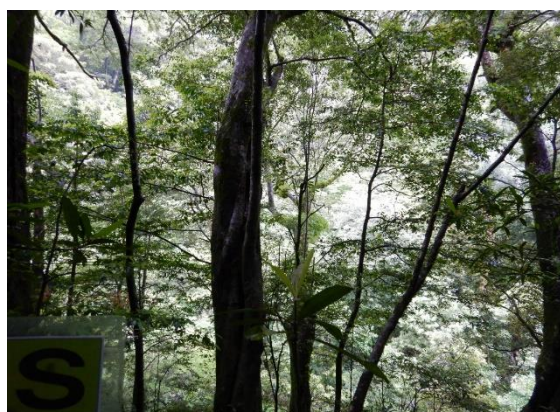
中心点より北方向



中心点より東方向



中心点より西方向



中心点より南方向



中心点の真上



全天球写真

保護林の概況調査整理表

調査プロット	No.6 (自動撮影調査2)		
調査日時	2020/6/9		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林班	28り林班	斜面方位	NE
標高	568m	傾斜角度	45°
緯度経度・測位系	N 31° 39'50.28" E 131° 11'42'.63"	局所地形	尾根 (山腹凸斜面)
群集名			
イスノキーウラジログシ群集			
植生の概況			
<p>■高木 ウラジログシ、アカガシ、スタジイ</p> <p>■亜高木 イスノキ、ヤブツバキ</p> <p>■低木 イスノキ、イヌビワ、イヌマキ</p> <p>■草本 サツマイモナリ、イズセンリョウ</p>			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付のこと)			
なし			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付のこと)			
なし			
選定理由			
ブロック②で唯一の地点。イスノキーウラジログシ群集を代表するイスノキとウラジログシが優占する林分のため			
その他			

中心点より北方向	中心点より東方向
中心点より西方向	中心点より南方向
中心点の真上	全天球写真

